

VII. 参考文献

- 1) 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 1994. 日本の哺乳類. 195pp., 東海大学出版会.
- 2) A.J. Mitchell-Jones. 1999. Conserving and creating bat roost. In bat workers' Manual, 2nd ed. (Mitchell-Jones, A.J. and A.P. Mcleish eds.), pp. 85-104.
- 3) Altringham, J.D. 1996. Bats: Biology and behavior. Oxford university press, Oxford. 262pp.
- 4) Bundesamt für Naturschutz (1999) Fledermause und Fledermausschutz in Deutschland Bats and Bats Conservation in Germany. zusammengestellt und bearbeitet von Peter Boye, Markus Dietz und Marion Weber. 110pp.
- 5) 船越公威・前田史和. 2000. キクガシラコウモリの夜間の活動と休息について. 日本哺乳類学会2003年度講演要旨集. Pp83.
- 6) Funakoshi, K., and Y. Takeda. 1998. Food habits of sympatric insectivorous bats in southern Kyushu, Japan. Mammal study, 23:49-62.
- 7) 畑瀬 淳・寺山美穂子・金井塚努. 1999. 広島市の市街地で発見されたオヒキコウモリの集団ねぐら. 日本哺乳類学会1999年度大会プログラム・講演要旨集, 200p.
- 8) 畑瀬 淳・寺山美穂子. 2001. オヒキコウモリのねぐらの構造と個体群構成について. 日本哺乳類学会2001年度大会プログラム・講演要旨集, 125p.
- 9) 畑瀬 淳・島津幸枝・寺山美穂子. 2002. オヒキコウモリの破壊されたねぐらへの再誘致の試みと新生息地. 日本哺乳類学会2002年度大会プログラム講演要旨集, 134p.
- 10) 百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ. 2001. 羊蹄山・ニセコ山系地区翼手類調査報告(1)—1997~2000年度調査結果一. 小樽市博物館紀要 14: 127-132.
- 11) Hutson, A.M., S.P. Mickleburgh, P.A. Racey, 2001, 5.5.5 Species Action Plan-*Hipposideros turpis* Lesser great leaf-nosed bats, Global Status Survey and Conservation Action Plan, Microchiropteran Bats. IUCN/SSC Chiroptera Specialist Group, 141-143.
- 12) 福井 大・百年の森ファンクラブコウモリ調査グループ. 2001. 羊蹄山・ニセコ山系地区翼手類調査報告(2)—倶知安町百年の森周辺におけるヒナコウモリの季節的動態一. 小樽市博物館紀要 14: 133-138.
- 13) Jon Russ. 1999. The Bats of Britain & Ireland, Echolocation Calls, Sound Analysis, and Species Identification. Alana Ecology Ltd 1999, Alana books 104pp.
- 14) Jones, G. 1990. Prey selection by the greater horseshoe bat (*Rhinolophus ferrumequinum*): Optimal foraging by the echolocation? J. Anim. Ecol. 59, 587-602
- 15) 環境省自然環境局野生生物課編. 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物-レッドデータブック- 1 哺乳類. 175pp., (財)自然環境研究センター.
- 16) Kate Barlow. 1999. Expedition Field Techniques BATS. The Expedition Advisory Centre. Royal Geographical Society. 69pp. London.
- 17) 環境省(生物の多様性分野の環境影響評価技術(Ⅲ) -環境保全措置・評価・事後調査の進め方について)
- 18) コウモリの会編集部. 1997. 日本で2番目のコウモリ小屋完成. コウモリ通信5(1): 6-7.
- 19) 庫本 正. 1972. 秋吉台産コウモリ類の生態および系統分類学的研究. 秋吉台科学博物館報告, (8): 7-119.
- 20) 庫本 正・中村 久・内田照章・下泉重吉. 1975. 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査Ⅲ. 1972年4月から1975年3月までの調査結果. 秋吉台科学博物館報告, (11): 29-47.
- 21) 庫本 正・中村 久・内田照章・下泉重吉. 1973. 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査Ⅱ. 1967年4月から1972年3月までの調査結果. 秋吉台科学博物館報告, (9): 1-18.
- 22) 庫本 正・中村 久・内田照章. 1985. 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査Ⅳ. 1975年4月から1983年3月までの調査結果. 秋吉台科学博物館報告, (20): 25-44.
- 23) 庫本 正・中村 久・内田照章. 1988. 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査Ⅴ. 1983年4月から1987年3月までの調査結果. 秋吉台科学博物館報告, (23): 39-54.
- 24) 庫本 正・中村 久・内田照章. 1995. 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査Ⅵ. 1987年4月から1993年3月までの調査結果. 秋吉台科学博物館報告, (30): 37-49.
- 25) 庫本 正・中村 久・内田照章. 1998. 秋吉台におけるバンディング法によるコウモリ類の動態調査Ⅶ. 1993年4月から1997年3月までの調査結果. 秋吉台科学博物館報告, (33): 31-43.
- 26) Kunz, T. H. 1988. *Ecological and behavioural methods for the study of bats*. Washington: Smithsonian Institution Press.
- 27) Kunz, T.H and P.A. Racey, 1998. *Bat Biology and Conservation*, Smithsonian Institution. PP365.
- 28) Kunz, T.H. 1982. Roosting ecology of Bats. In: *Ecology of bats*. (Ed. T.H. Kunz), pp. 1-55. New York: Plenum Press.
- 29) M. Finnemore & P. W. Richardson. 1999. Chapter 4 Catching bats. In bat workers' Manual, 2nd ed. (Mitchell-Jones, A.J. and A.P. Mcleish eds.), pp. 33-36.
- 30) M. Finnemore & P. W. Richardson. 2004. Chapter 4 Catching bats. In bat workers' Manual, 3rd ed. (Mitchell-Jones, A.J. and A.P. Mcleish eds.), pp. 41-48.
- 31) Maeda, K. and S. Matsumura. 1998. Two New Species of Vespertilionid Bats, *Myotis* and *Murina* (Vespertilionidae: Chiroptera) from Yanbaru, Okinawa Island, Okinawa Prefecture, Japan. *Zool. Sci.*, 15: 301-307.

- 32) 前田喜四雄. 1983. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類検索表. 哺乳類科学, 46 : 11-20.
- 33) 前田喜四雄. 1987. 日本のコウモリ. 採集と飼育, 49 : 422-427.
- 34) 前田喜四雄. 2001. 日本コウモリ研究誌—翼手類の自然史. 203pp., 東京大学出版会.
- 35) 前田喜四雄. 2005. 翼手目(コウモリ目) CHIROPTERA. [監修]阿部 永 日本の哺乳類[改訂版], 25-64. 東海大学出版会, 東京.
- 36) 前田喜四雄・赤澤 泰. 1999. 飛翔コウモリ通過個体数確認の試み. 哺乳類科学, 39(2) : 221-228.
- 37) 前田喜四雄・山本輝正. 1998. 第8編 第1章 第5節コウモリ類, 安曇村誌 第1巻 自然. 521-530.
- 38) 向山 満. 1990. 森林棲コウモリを探して. 採集と飼育, 52 : 477-480.
- 39) 向山 満. 1985. 天間館神社のトウヨウヒナコウモリ. 動物と自然15(2) : 22-26.
- 40) 向山 満. 1987. コウモリの引越し作戦—神社に住みついたコウモリの強制移転—. 採集と飼育49(10) : 444-449
- 41) 向山 満. 1991. ヒナコウモリの保護と生態研究. 高校通信 東書 生物 1991. 10. 1. 6-7.
- 42) 向山 満. 1996. 青森県におけるヒナコウモリの繁殖集団. 青森自然誌研究(1) : 9-12.
- 43) 向山 満. 1998. 天間館神社のコウモリの引越し大作戦. コウモリ通信6(1) : 16-19.
- 44) 向山 満. 1999. 上北町のバットボックス. コウモリ通信7(1) : 14-15.
- 45) 向山 満. 1999. 八戸市尻内橋のバットボックス. コウモリ通信7(1) : 15.
- 46) 向山 満. 2001. モモジロコウモリ保護施設の計画. コウモリ通信9(1) : 6-7.
- 47) 向山 満. 2003. 赤穂土橋(青森県南郷村)のコウモリ保護施設. コウモリ通信11(1) : 13-14.
- 48) 向山 満. 2003. 秋田県森吉山ダムのコウモリ類保全施設と利用状況. 日本哺乳類学会2003年度大会プログラム・講演要旨集, 236p.
- 49) Neuweiler, G. 2000. Functional anatomy and locomotion. Pp.9-42 in The Biology of Bats. Oxford University Press.
- 50) 日本哺乳類学会編. 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 279pp., 株式会社 文一総合出版.
- 51) Norberg, U, M, and J. Rayner, 1987. Ecological morphology and flight in bats (Mammalia: Chiroptera): Wing adaptations, flight performance, foraging strategy and echolocation. Phil. Trans. Roy. Soc. Lond. B316, 335-427.
- 52) 沖縄総合事務局北部ダム事務所. 1997. 羽地ダムで”コウモリ用人工洞くつ”の整備を実施(”生態観察室”も併設) 記者発表資料. PP12.
- 53) 谷崎美由記・前田敦子・柳川 久. 2003. 道路建設に伴うコウモリ類への保全対策とそのモニタリング. 第2回「野生生物と交通」研究発表会講演論文集pp53-60.
- 54) 谷崎美由記・柳川 久. 2003. 小型コウモリ類保全対策の評価: 造成された代替池は採餌場所として有効であったか?. 日本哺乳類学会2003年度大会プログラム・講演要旨集, P223.
- 55) 谷本雄治. 2003. 地球ふしぎはっけんシリーズ5 コウモリたちのひっこし大計画. 95p. (株)ポプラ社,
- 56) 寺田達志. 1999. わかりやすい環境アセスメント. 181pp., 学校法人東京工科学園出版部.
- 57) 寺山美穂子. 2001a. オヒキコウモリのコロニーから. コウモリ通信 9(1) : 1-5.
- 58) 寺山美穂子. 2001b. オヒキコウモリの観察記 修道に生息するオヒキコウモリの集団に関して. 修道中・高等学校研究紀要17 : 1-33.
- 59) 寺山美穂子. 2001c. 続オヒキコウモリの観察記 修道に生息するオヒキコウモリ *Tadarida insignis* の集団に関して. 修道中・高等学校研究紀要18 : 1-41.
- 60) 東北農政局農村計画部資源課. 2003. コウモリビットによる保全の試み. コウモリ通信11(1) : 14-16.
- 61) 辻 明子・小柳恭二. 2003. 長野県佐久市周辺におけるヤマコウモリの生活史(予報). 日本哺乳類学会2003年度講演要旨集. Pp237.
- 62) Tuttle, M. D. 1976. Population ecology of the grey bat (*Myotis grisescens*): philopatry, timing and patterns of movement, weight loss during migration, and seasonal adaptive strategies. *Occ. pap. Mus. Nat. Hist. Univ. Kans.* 54, 1-38.
- 63) 安井さち子・上條隆志. 2003. 第5章 樹洞棲コウモリ類の生息環境とヒメホオヒゲコウモリの保全に関する考察. , 森林における樹洞棲コウモリのねぐら選択性に関する研究(課題番号13660138). 平成13年度~平成14年度 科学研究費補助金(基盤研(C)(2))研究成果報告書. Pp49-53.
- 64) 山本輝正・橋本肇・井上千佐子・井上章・中村桃子・西岡真智子. 2003. 長野県安曇村乗鞍高原におけるクビワコウモリ *Eptesicus japonensis* の出産哺育個体群の12年間の個体数の変化とねぐらの変遷について. 日本哺乳類学会2003年度講演要旨集. pp83.
- 65) 山本輝正. 2001. 乗鞍高原におけるコキクガシラコウモリのnight-roostでの行動観察. コウモリ通信9(1):8-9. コウモリの会.
- 66) 山本輝正. 1999. キクガシラコウモリのNight-roostにおける秋期の行動について. 日本哺乳類学会1999年度大会講演要旨集. pp196.
- 67) 山本輝正・橋本肇・植木康徳. 1998. 乗鞍高原のコウモリ. 岐阜県高等学校教育研究会 生物教育研究会雑誌, 42. 12-18.
- 68) 柳川 久・佐々木康治・片岡香織. 2001. 北海道芽室町伏古地区における翼手目(コウモリ類)の捕獲記録. 森林野生動物研究会誌(27).

- 69) 柳川 久・野呂美沙子・岡部佳容2001. ボックスカルバートを利用するコウモリ. コウモリ通信9(1) : 11-12.
- 70) 野鳥法学会編. 2002. 条約集. 207pp., (株ぎょうせい).
- 71) 野鳥法学会編. 2001. 野鳥法資料 鳥獣保護法 種の保存法(平成十四年). 274pp., (株ぎょうせい).
- 72) 野鳥法学会編. 2002. 野鳥法資料 改正鳥獣保護法・資料集. 206pp., (株ぎょうせい).
- 73) 吉行瑞子・刈部治紀. 2002. ニホンコテングコウモリの生息環境について. ANIMATE, 3 : 15-16.